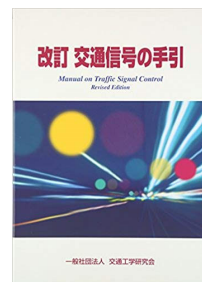


改訂のポイント



改訂 平面交差の計画と設計 基礎編
(2002年) (通称：青本)



改訂 交通信号の手引(2006年)
(通称：赤本)



平面交差の計画と設計 基礎編
-計画・設計・交通信号制御の手引-
(2018年11月発刊)

1

改訂のポイント (その1)

- 構成上の主要な変更点
 - 「基礎編」と「交通信号制御の手引」を統合
 - 「交差点部」と「単路横断部」を対象に
 - 「交通制御の選択」を手順として明確化
 - (一時停止制御、ラウンドアバウト、信号制御)
 - 「往復2車線交差点」と「多車線交差点」の手順を区分
 - 飽和交通流率は実測を原則→モデル計算は附録へ

2

改訂のポイント（その2）

- 表現や定義の明確化
 - 「平面交差」とは??
 - 「流入部の交差角」
 - 「スプリット」の用語を明確化（青信号スプリット、現示スプリット）
 - 「青・黄・赤信号表示（時間）」（青表示、黄表示ではなく）、 「有効青時間」との関係性を明確化
 - 「クリアランス時間」 → 「黄・赤信号表示時間」
 - 「中央感応制御」 → 「交通応答制御」

3

改訂のポイント（その3）

- 新たな概念・手法の導入
 - 青信号表示後の右折専用現示の容量計算：KERをやめ、 D/v を導入
 - 「全赤信号表示時間」を短くするための考え方の導入（クリアランス距離とエンタリング距離）
 - 円滑性指標MOE（Measure of Effectiveness）の導入
 - 最大値、最小値、目安値等の見直し（根拠のない値は廃止。残す場合は考え方を明記）：最小青時間、最大サイクル長、導流路の外側半径
 - 2段階設計車両
 - 単路横断部における2段階横断（信号制御、無信号制御）

4